

## 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)併催屋外展示会 「生物多様性交流フェア」活動報告

北 澤 哲 弥

千葉県生物多様性センター

### はじめに

2010年10月に名古屋で行われた生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)では、政府・自治体、県民／市民、NGO／NPO、学術、企業など国内外の多様な主体が、生物多様性の課題や取り組みを持ち寄り、議論し、交流する場として、生物多様性条約第10回締約国会議併催屋外展示会「生物多様性交流フェア(以下:交流フェア)」が開催された(主催:生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会)。千葉県は自然保護課を中心に、県の生物多様性保全に関する取り組みを広く国内外に発信するべく、交流フェアに参加し、展示ブース、ポスターセッション、ステージイベントに参加した。ここでは、交流フェアにおける本県の活動の内容とアンケート結果等について報告する。

### 生物多様性交流フェア およびCOP10関連イベント

交流フェアは2010年10月11日(月)から10月29日(金)まで開催され、本県はカルタヘナ議定書締約国会議(COP-MOP5)が終了し、COP10本会議が開催される18日から29日の期間で参加した。交流フェアは、展示ブースの出展、ポスター展示、ステージイベント発表、フォーラムの開催の4つのカテゴリーで構成された。主催者発表によれば、展示ブースには207団体が参加し、うち海外からの出展が42団体であった。フォーラムは108の開催、ステージでは52の発表があった。フェア期間中は延べ118,647人が来場した(フォーラム参加者含む)。フェアは愛知県名古屋市熱田区で行われ、白鳥公園・熱田神宮公園・名古屋学院大学体育館が会場となった。

本県は、展示ブース出展(18-29日)およびポスター展示(18-29日)、ステージイベント(20日15時~16時)に参加した。また同期間中に行われた「自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)」、および「いきものみつけシンポジウム」において口頭発表を行い、「生物多様性国際自治体会議」ではポスター掲示をしたほか、COP10サイドイベント「生物多様性民間参画パートナーシップ」や「Assessment process: Exploring SATOYAMA-SATOUMI Renaissance(日本の里山里海評価)」などに出席した。

### 展 示 ブ ー ス

#### 1 概要

パネル、物品の展示、映像等を用いて、千葉県の生物多様性の現状、生物多様性ちば県戦略の概要と策定方法、生物多様性センターを中心とした戦略推進の取り組み等について紹介した。ブースには解説員として2名前後が常駐するよう、生物多様性戦略推

進室員が交代で務めた。また外国人対応のため、翻訳スタッフ1名が常駐した。期間中の来訪者数は2,838名、うち外国人が34名であった（カウント対象はブース内に入った人のみ。ブース前から覗き見るだけ、ブース前のパンフレットを持ち去るだけといった方は、カウント数に含まれていない）。ブースに入ってくる人は熱心に質問をし、10分以上も解説員と話をする人がかなり多くみられた（計測は行っていない）。ブースの来訪者は平日184.5人、土日496.5人と土日が多く、平日は一人当たり長く対応できる一方、土日はブース内に人が入れない状況もあった。他団体のブースでは解説員が1名もしくは全くいないところもあり、しっかりと解説をした点で本県のブースは高い評価を得ていた（アンケート結果参照）。

展示ブースを出展した団体はNPO/NGOが多かったものの、地方自治体や企業などの出展も多く見られた。参加した地方自治体は20を超え、都道府県では本県以外に、北海道、愛知県、石川県、三重県環境森林部、静岡県、長野県、山梨県、富山県、福井県、滋賀県、高知県、新潟県、埼玉県、沖縄県、京都府が参加した。滋賀県はピワコオオナマズの剥製、新潟県はトキの羽を飾るなど、各県が力を入れて取り組んでいる具体的な保全事業を紹介する展示が多く見られた。企業の参加は30社を超え、本業の中での生物多様性保全の取り組みからCSR的な取り組みまで、様々なPRが見られた。

## 2 展示

ブースでは、パネル、物品、映像、配布物という4つの手法で普及啓発を進めた（図1、写真1、2）。

パネルは計10枚を設置した。各パネルでは紹介したテーマは、①導入ポスター：千葉県の外来哺乳類を探せ、②千葉県の生物多様性、③生物多様性ちば県戦略、④生物多様性センターの概要、⑤センターの活動：外来生物対策、⑥センターの活動：生

物多様性地理情報システム、⑦センターの活動：生命のにぎわい調査団、⑧センターの活動：企業連携、⑨センターの活動：夷隅川流域での生物多様性保全再生事業、⑩千葉県の衛星画像である。展示時間は夕方の暗くなる時間帯に及んだため、スポットライトを用いてパネル類をライティングした。

物品展示では、パネル展示⑤の前にカミツキガメの成熟個体1匹と幼体2匹の剥製をアクリルケースに入れて展示するとともに、背甲と腹甲を触れる展示物としてケース外に設置した。これらの剥製は県立中央博物館から借用した。また通路側に「千葉県民による宣言！～生物多様性の保全のために私ができること～」（以下エコ宣言）を展示した。これは、県内各地で環境関連のイベントが行われた際に、自分のできるエコ活動として県民の方々に選んでいただいた結果を同数のおはじきを用いて展示した。県民から寄せられた宣言は計5821票で、「ペットは最期まで飼う（568票）」、「エコバックを使う（1039票）」、「生きものにやさしい商品を買う（724票）」、「旬の食材を買う（805票）」、「千葉の食材を買う（894票）」、「生きものに親しむ（533票）」、「マナーを守って自然と親しむ（643票）」、「省エネ・省資源生活を心がける（615票）」だった。イオン（株）などの商業施設で集められた票が多かったことも一因と思われるが、エコバッグなど買物に密接した行動が多く票を集めていた。

パネル展示⑦「生命（いのち）のにぎわい調査団」の前面に液晶ディスプレイを設置し、調査団の活動状況や、調査団員が撮影した県内の代表的な生物、希少種、外来種などの写真をまとめ、繰り返し再生した。液晶ディスプレイは数秒間で画像が入れ替わるため、ブース前を通り過ぎる方たちへのPRともなった。

ブースでは「生物多様性ちば県戦略」「生物多様性ちば県戦略の策定と推進」

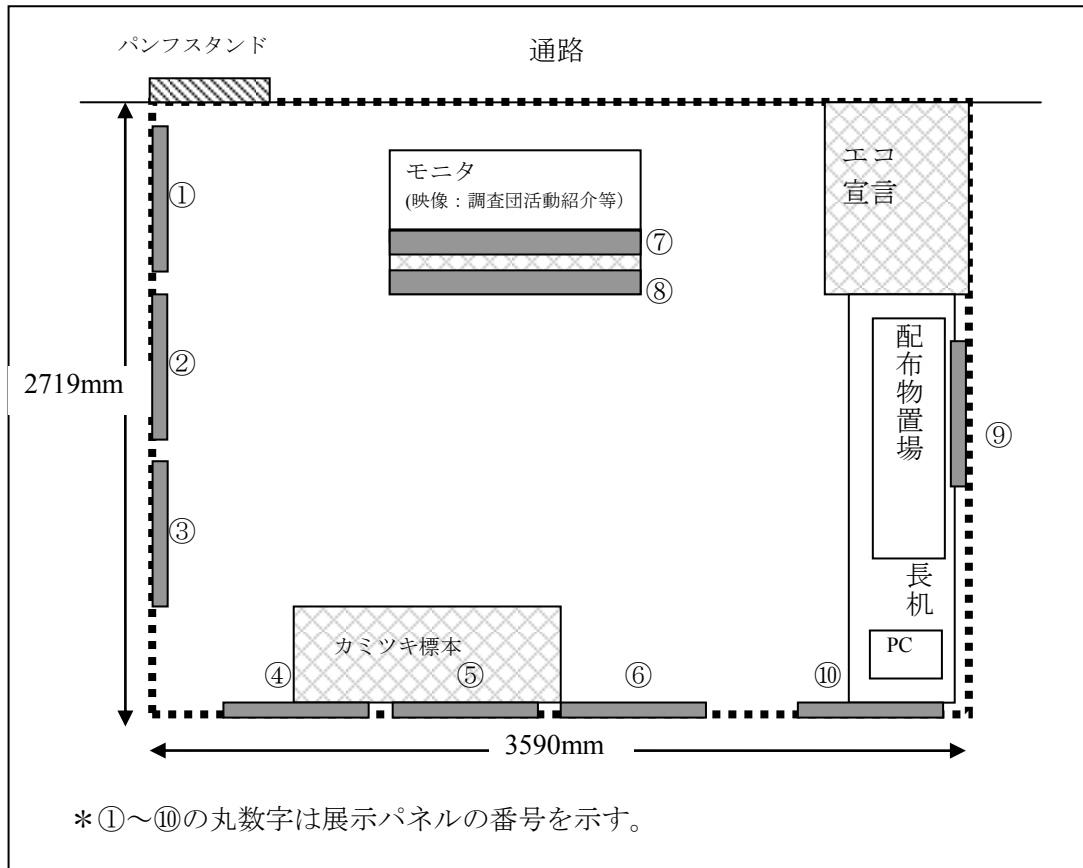


図1 ブース内の展示配置



写真1 ブースの概要



写真2 解説の様子

「生物多様性ゆたかな持続可能な社会に向けて一ちばの里山里海サブグローバル評価一」の3種類のパンフレットを配布した。それぞれ日本語版と英語版を作成し、日本語版は各千数百部、英語版は百部程度を配布

した。他にも、自然保護課、報道広報課、森林課、産業振興課などからの資料をあわせて配布した。

また、物品展示とパネル展示⑦および⑧を貼付した台(写真1中央)は、木質セル

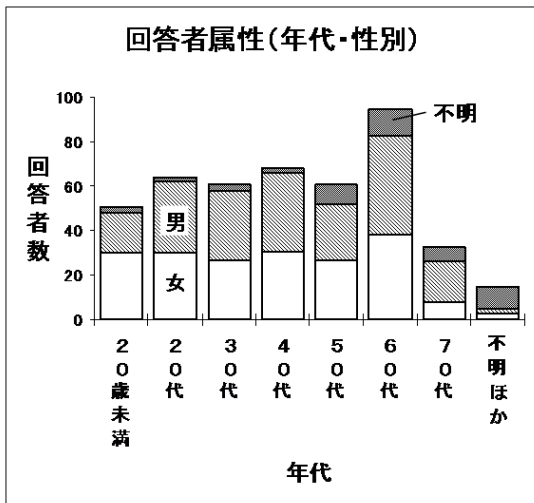


図2 アンケート回答者の年代および性別属性

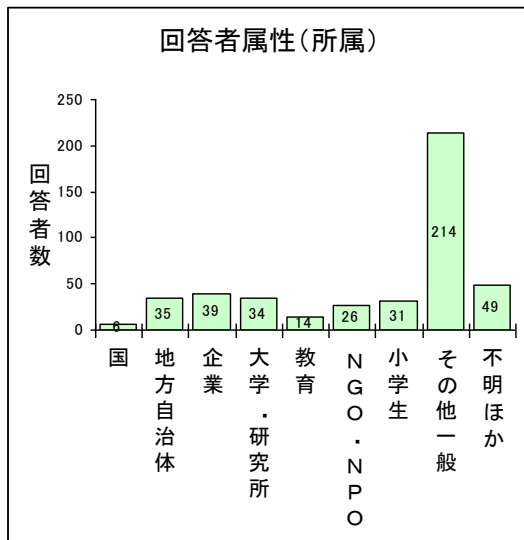


図3 アンケート回答者の所属

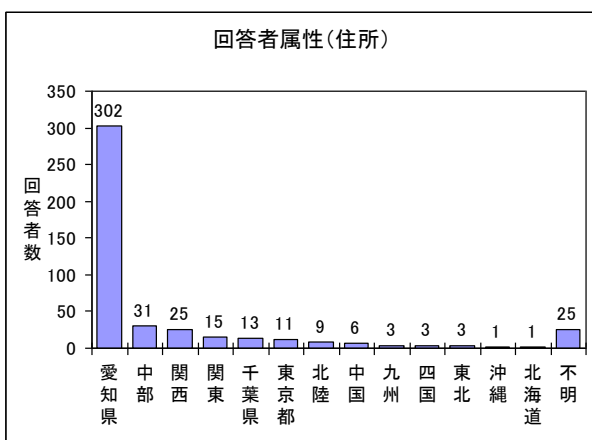


図4 アンケート回答者の居住地属性

ローズ素材などから造られた「レンブロック（平成21年千葉ものづくり認定製品）」というブロックを積み上げて作成した。また台の棚板は県産材を用いた合板を使用した。これらを組み合わせ、台自身も展示物とした。レンブロックおよび棚板は産業支援技術研究所から借用した。

### 3 アンケート

展示ブースの来訪者に対し、アンケートを行ったところ、448名から回答を得た。

回答者の属性をみると、年代・性別は特定の年代や性への偏りはほとんど見られず、20代から60代まで幅広い回答が得られた（図2、20歳未満には小学生31名が含まれる）。所属は近隣住民の方などに相当する、その他一般が214名と著しく多く、ほぼ半分を占めた。次いで企業39、地方自治体35、大学・研究所34（主に大学生）となった（図3）。回答者の住まいは愛知県内から302名とほとんどを占めたが、少ないながらも全国各地より来訪者があった（図4）。

Q1の展示・解説については、「よく分かった」と「分かった」を選んだ人がおよそ9割であった（図5）。分かりにくかったとする人が2名いたものの、概ね来訪者の求めるレベルに合った展示および解説ができたと思われる。

Q2の千葉県の生物多様性保全の取り組みについては、「非常に進んでいる」と「進んでいる」をあわせて8割近くを占めており（図6）、千葉県は取り組みの進んでいる県として認識されていると思われる。

Q3の千葉県の取り組みの中で最も評価されている取り組みは外来生物対策で、202票を集めた（図7）。次いで、生物多様性ちば県戦略を策定したことが139票、生物多様性センターの設置が117票と続いた。最も票を集めた外来生物対策については、導入ポスターが「千葉県の外来哺乳動物を探せ」だったこと、カミツキガメの剥製展示があったことなど、外来生物に関する話題提供が相対的に多かったという理由もある

Q1. 展示・解説の分かりやすさはいかがでしたか？

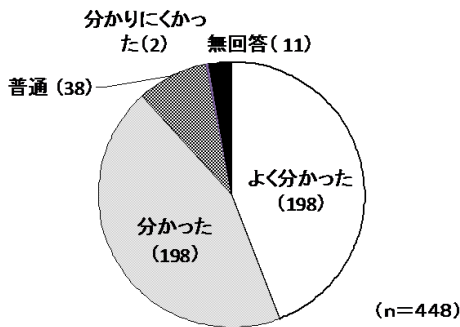


図5 展示解説の分かりやすさに対する回答数（質問「展示・解説のわかりやすさはいかがでしたか？」に対し、「よく分かった」、「分かった」、「普通」、「分かりにくかった」の4段階から選択）

Q2. 千葉県の生物多様性保全の取組の評価

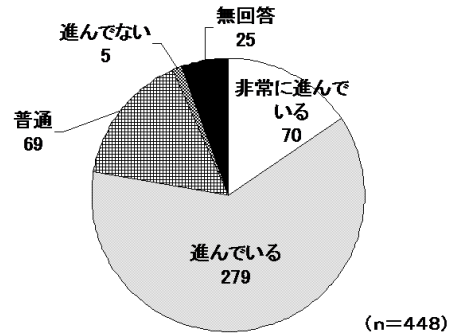


図6 千葉県の生物多様性に関する取り組みに対する評価（質問「あなたは千葉県の生物多様性保全への取り組みをどう評価しますか。」に対し、「非常に進んでいる」、「進んでいる」、「普通」、「進んでいない」の4段階から選択）

が、「うちの近所でもカミツキガメがいる」といったような話をする方も多く、外来生物に対する市民の関心の高さを感じる結果となった。県戦略については、「県民が参加してつくったことに意義がある」や「他県に先駆けてつくった」ことなどを、進んでいると評価した理由として挙げる人が多かった。また生物多様性センターについては、「他県にはない先進的な取り組みである」、「多様な主体を牽引して戦略を実施するためにはこうした旗振り役が必要」といった理由をあげて評価する人が多かった。

Q4の千葉県や地方自治体に期待する取り組みとして挙げられた項目は、ここでも外来生物対策が最も多かった（図8）。次いで、森林管理・保全、希少動植物、環境教育などが挙げられている。これらの結果は、外来生物対策をどう進めるかあるいは絶滅危惧種をどう保全するかといった個々の生物種の問題、森林や農地など動植物の生息・生育環境をどう保全するか、さらには次世代に向けた自然環境を保全するための人材育成を促進する、といった点の充実を市民が行政に対して望んでいることがわ

かる。今後、地域戦略の策定を進めていく自治体が増えることが予想されるが、戦略をつくることだけではなく、その内容となる個々の施策の充実が求められているといえる。

Q5は今後の千葉県の参考となるような他団体の取り組みを紹介してほしいという意図で作った設問である。寄せられた意見数は53件とそれほど多くはなかったものの、内容は多様であった。共通するポイントを整理すると、市民・企業・行政など多様な主体が協力して生物多様性の保全に取り組む体制づくり、ビオトープや里山など身近な自然を保全する取り組みの推進、鳥獣害対策のような人間と生物との関係の在り方、特定の種の保護・保全、などについての意見が寄せられた。

自由回答でも様々な意見が寄せられた。多く見られた意見としては、外来生物対策をより一層進めてほしい、豊かな自然を減らすことなく保全に取り組んでほしい、県の活動をもっとPRする機会を増やすべき、東京湾の干潟の保全を進めてほしい、といった意見が多く寄せられた。

### Q3. 参考になった千葉県の取組み

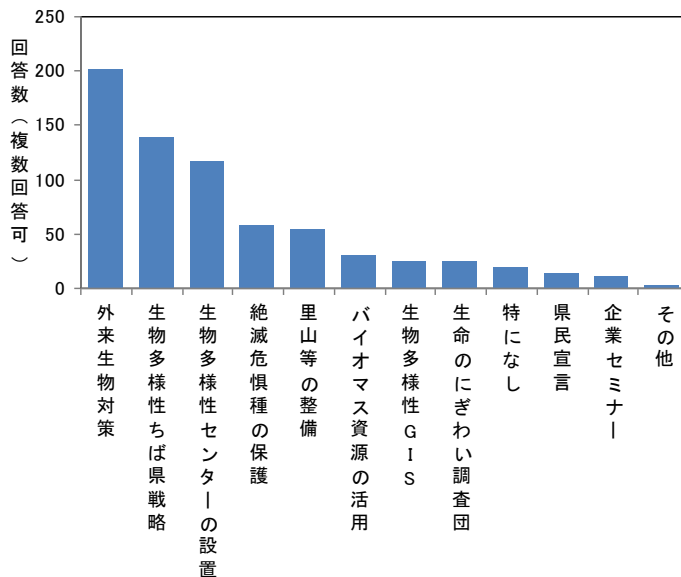


図7 参考になった千葉県の取り組み（質問「参考になった千葉県の取り組みは何ですか？（複数回答可）また、そのうちの1つ以上について、選んだ理由をご記入ください。」に対し「生物多様性ちば県戦略」、「生物多様性センターの設置」、「外来生物対策」、「絶滅危惧種の保護」、「生物多様性GIS」、「生命のにぎわい調査団」、「企業セミナー」、「里山等の整備」、「バイオマス資源の活用」、「県民宣言」、「特になし」、「その他」の12段階から選択（複数回答可）、また選んだ理由を書き込む自由記入欄あり）

### Q4. 千葉県や地方自治体に期待する取組み

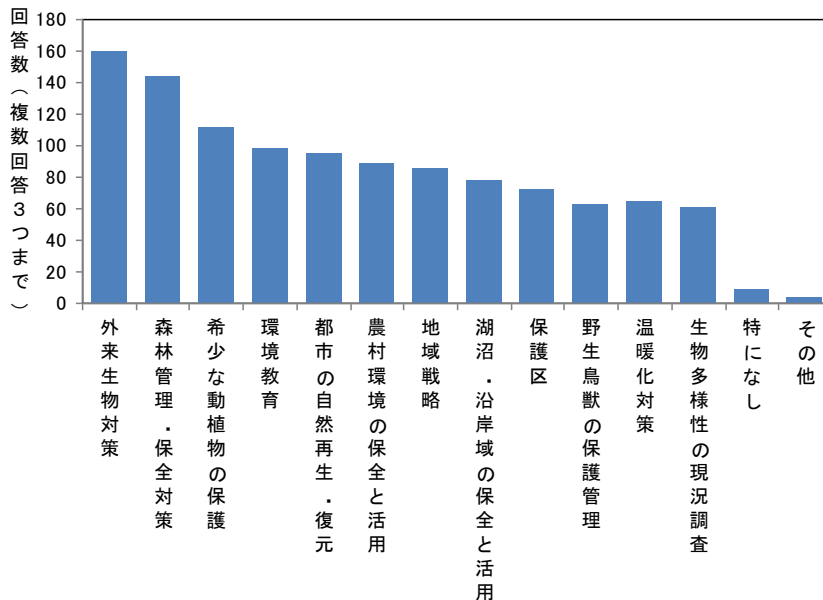


図8 千葉県もしくは他の地方自治体への期待（質問「千葉県や他の地方自治体に期待する取り組みを3つまでお選びください。」に対し、「地域戦略」、「保護区」、「森林管理・保全対策」、「農村環境の保全と活用」、「湖沼・沿岸域の保全と活用」、「都市の自然再生・復元」、「希少な動植物の保護」、「外来生物対策」、「野生鳥獣の保護管理」、「温暖化対策」、「環境教育」、「生物多様性の現況調査」、「特になし」、「その他」の14段階から選択（3つまで回答可）

## ポスターセッションおよびステージイベント

ポスター展示は、COP10期間中を通してポスター会場に掲示された。ポスターでは、千葉県の生物多様性の現状と課題、生物多様性ちば県戦略と県民参加での策定プロセス、千葉県生物多様性センターの取り組みについて紹介した。コアタイムのようなスピーカーを付けての発表などは行われなかったため、ポスターに対する参加者の反応はわからない。ただ、ポスターの掲示時に数名の参加者と話す機会があり、その際には「生物多様性センターが行政だけでなく専門家のいる博物館と連携して保全を進めている点が評価できる」、「千葉県が全

国で初めて戦略をつくったとは知らなかった」、「生物多様性センターという推進組織を他県でも真似してほしい」といった意見をいただいた。

ステージ発表は10月20日の午後3時～4時に実施した。パワーポイントやDVD映像を用いて、千葉県の生物多様性の成り立ち、生物多様性が脅かされている現状、生物多様性センターの取り組みなどについて紹介した。DVD映像では報道広報課より拝借した「ようこそ千葉県へ」「千葉の環境」および、環境政策課作成の「ちばCO2CO2ダイエット チィーバからはじめよう!」を利用した。のべ40名程度が参加し、参加者にはパンフレット配布等も行った。

---

著 者：北澤哲弥 〒260-0852 千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館内 千葉県環境生活部自然保護課生物多様性戦略推進室生物多様性センター t.ktzw2@pref.chiba.lg.jp

“Activity report: Exhibiting at the CBD COP10 Interactive Fair for Biodiversity.” T. Kitazawa, Chiba Biodiversity Center, 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-0852, Japan.  
E-mail:t.ktzw2@pref.chiba.lg.jp

## 千葉県の生物多様性保全にかかるアンケート

☆下記からあなたに当てはまるものを選んでください

性別： 男・女 年齢： 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上  
所属： 国 地方自治体 企業 大学・研究所 教育 NGO・NPO 報道機関 その他一般  
住所： 千葉県 愛知県 その他の都道府県（ ） 日本以外（ ）

### 下記の5つの質問におこたえください

Q1 展示・解説のわかりやすさはいかがでしたか？

- 1) よく分かった 2) 分かった 3) 普通 4) 分かりにくかった

Q2 あなたは千葉県の生物多様性保全への取り組みをどう評価しますか。

- 1) 非常に進んでいる 2) 進んでいる 3) 普通 4) 進んでいない

Q3 参考になった千葉県の取り組みは何ですか？（複数回答可）

また、そのうちの1つ以上について、選んだ理由をご記入ください。

- 1) 生物多様性ちば県戦略 2) 生物多様性センターの設置 3) 外来生物対策  
4) 絶滅危惧種の保護 5) 生物多様性 GIS 6) 生命のにぎわい調査団 7) 企業セミナー  
8) 里山等の整備 9) バイオマス資源の活用 10) 県民宣言 11) 特になし  
12) その他（ ）

選んだ番号： \_\_\_\_\_  
理由： \_\_\_\_\_

Q4 千葉県や他の地方自治体に期待する取り組みを3つまでお選びください。

- 1) 地域戦略 2) 保護区 3) 森林管理・保全対策 4) 農村環境の保全と活用  
5) 湖沼・沿岸域の保全と活用 6) 都市の自然再生・復元 7) 希少な動植物の保護  
8) 外来生物対策 9) 野生鳥獣の保護管理 10) 温暖化対策 11) 環境教育  
12) 生物多様性の現況調査 13) 特になし  
14) その他（ ）

Q5 千葉県以外の団体が行う取り組みで、参考にすべき特徴的な事例があれば教えてください。

団体名： \_\_\_\_\_  
内容： \_\_\_\_\_

自由回答欄（千葉県の自然保護行政に期待すること、ご意見など、ご自由にお書きください）

☆ご協力ありがとうございました。 千葉県環境生活部自然保護課